〈研究ノート〉

Google ストリートビューを使っての言語使用調査

── 新宿区歌舞伎町の言語景観 ──

本　間　勇　介

キーワード：Google ストリートビュー，言語景観

は じ め に

2008 年 8 月 4 日，検索エンジンの「Google」が日本で「Google ストリートビュー」のサービスを開始した。本稿では「Google ストリートビュー」を使って，新宿区歌舞伎町の言語景観を調査した。

1. Google ストリートビューについて

1. 1　Google ストリートビューとは

2007 年にアメリカで「Google」が，「Google マップ」と「Google Earth」のサイトページを使ってビルの上まで街路写真を見ることができる「Google ストリートビュー」のサービスを開始した。現在では，「Google マップ」で日本，アメリカ，フランス，イタリア，オーストラリアなどの主要都市でインターネットを使って，街路写真を見ることができる。

1. 2　Google ストリートビューの使い方

「Google ストリートビュー」で見られるところは，「Google マップ」地図上の青色で塗られている地域である。カメラアイコンまたはズームインをすると，黄色い人型のアイコンが現れる。これをドラックすると，「Google ストリートビュー」の画面になる。「Google ストリートビュー」では，東や西などの方位クリックをクリックすると前進・後進をすることができる。マウスをスクロールすると拡大・縮小，マウスの操作によりビルの上まで街路写真を見られる。

2. ストリートビューを用いての言語景観調査の利点・欠点

本稿では，「Google ストリートビュー」を用いて言語景観を調べた。バックハウス（2005）は，言語景観を「日本語しか含まない単一言語表示」と「日本語以外，あるいは日本語の代わりに，ほかの言語を含む多言語表示」，また公的表示（道路標識，地名表示，官庁の標識など）と私的表示

（店名表示，広告看板など）と定義している。

正井（1983）の言語景観の調査では，実際に歩いて地図に多言語使用を書き込んだ。バックハウス（2005）の言語景観の調査でも，実際に歩いてデジタルカメラで写真を撮って多言語使用を調べた。本稿では，「Google ストリートビュー」のみを使って多言語使用を調べた。

2.1　ストリートビューの利点

- わざわざ現地まで行って，言語調査をしなくても良い。
- 現地に行くと現地の人に邪魔をされることがあるが，ストリートビューは現地の人の干渉がない。

2.2　ストリートビューの欠点

- 場所によってはストリートビューで見ることができない地域がある。
- トラックなどの障害物で看板を見ることができない。
- 写真の解像度が低くて，何が書いてあるかが分からない場合がある。
- 街の写真をいつ撮影したのかが分からない。

3. Google ストリートビューを用いての言語景観の調査方法

「Google ストリートビュー」を使って，多言語表示を調査した。調査範囲は新宿区歌舞伎町である。記録方法は，「Google ストリートビュー」を見ながら，地図に多言語表示を記入した。アルファベット，その他（簡体字・繁体字・ハングル文字）を記録し，「Google ストリートビュー」の写真の解像度が低いので，個々のつづりは分析しない。文字だけに着目する，つまり言語種については調べないことにした。

4. 結果及び考察

表　各文字種の件数

文　字　種	アルファベット	簡　体　字	繁　体　字	ハングル文字
件　数	112	2	1	1

調査した結果，歌舞伎町ではアルファベットを用いた看板が圧倒的に占めていた。しかし，簡体字・繁体字の言語使用は少なかった。また，近くにコリアンタウンの新大久保があるが，歌舞伎町ではハングル文字を１件しか見ることが出来なかった。今後は，ハングル文字がどのように新大久保に広がったか調査したい。

参考文献

バックハウス，ペーター（2004）「「内なる国際化」── 東京都の言語サービス」河原俊昭（編）『地方自治体の言語サービス：多言語社会への扉をひらく』春風社

────（2005）「日本の多言語景観」真田信治・庄司博史（編）『辞典　日本の多言語社会』　岩波書店

正井泰夫（1983）「新宿の喫茶店名 ── 言語景観の文化地理」『筑波大学地域研究』筑波大学地域研究科